

令和5年度 第3回社会教育委員会会議録

日 時 令和6年3月25日（月）10時00分から11時50分

場 所 市役所5階小会議室

委 員	委 員 長		松尾 弥生
	副委員長		高瀬 由美
	委 員		田中 亨胤
	委 員		谷勝 公代
	委 員		河合 新一
	委 員		村上 尚美
事務局	生涯学習課	課長	北島 悦乃
	生涯学習課	課長補佐	高見 和哉
	生涯学習課	職員	藤井 優佳

1. 開会（事務局）

2. 社会教育委員長あいさつ（委員長）

本日は、今年度の社会教育活動について事務局から報告をしていただき、それに対して私達から提言をさせていただくこととなります。また、第2回社会教育委員会会議では「公民館」や「オークタウン加西」など、テーマを設定して考えることを行っていますが、来年度のテーマは何にするかというお話もさせていただきたいと思っております。

先日、東・北播磨の会議に出席させていただきました。そこで、各市町から令和5年度の社会教育活動についてのお話があり、部活動の地域移行やコミュニティ・スクールの推進などに関しては、多くの市町が取り組みを行われているということをお聞きしました。

また、会議の回数について、加西市は年間3回開催することが多いですが、市町によっては6回開催されているところもありました。また、実践的にされているところもあれば、提言のみで終わられているところもありました。加西市のように3回だけであれば、私たちが勉強させてもらって終わりになりかねないので、できるだけ各自で情報収集に努めて、より良い意見が出せるようになればいいなと思っております。

来年度の会議テーマについては、今日の話し合いの中で、皆さんと決めることができると考えておりますので、よろしく申し上げます。

3. 協議事項

(1) 令和6年度社会教育委員会活動について

～事務局より令和6年度社会教育委員会活動について説明～

○事務局

来年度の第2回社会教育委員会のテーマについて提案はありますでしょうか。

○委員長

たとえば、部活動の地域移行のことやコミュニティ・スクールのことについて、事務局から加西市の現状をお話しいただくことは可能なのでしょうか。

○事務局

細かい部分の共有はできておりませんので、そういったテーマを取り扱うことになった場合は、学校教育課や総合教育センターの方など担当の部署の方に来ていただくこととなります。

○副委員長

今、学校では子どもの数が減っていて、「いろいろな部活動があつたらいいなどは思いますが、先生の人数が足りなくてできない」と言われているのを聞いたことがあります。そういうこともありますので、学校と地域の関係ということテーマにするのもいいかなと思います。

加西市のコミュニティ・スクールは動き出しているのですよね。

○事務局

そうですね。各公民館長もそれぞれの中学校区のコミュニティ・スクールの委員として入っています。

○委員B

私も富田小学校区で委員をさせていただいています。

各校区でふるさと創造会議が活動しているかと思いますが、その役割が校区によって違うのですよね。そのあたりに少し戸惑いがあります。

また、兵庫県ではスポーツが社会教育の部署から切り離されましたよね。それに戸惑ってらっしゃる市町が多いようで、前向きに活動していただくようにということは県からお伺いしています。

また、来年度より加西市では社会教育推進事業の補助金ができたとありますが、地域ではだれが社会教育推進員になっているのか把握できていないこともあります。女性が地域の役員になればプラスアルファで補助金が出ているそうですが、それとも繋がるのかなと思っています。

○事務局

社会教育推進員については、1月に区長と併せて選出していただき、市に報告をいただいています。

また、女性が地域の役員になることによって出る補助金は、社会教育推進員に限らず、町の役員が対象です。社会教育委員が役員に入っているかどうかは、町の規定によります。現状、社会教育推進員は役員に入っていない町の方が多いのではないかと思います。

～事務局より社会教育推進事業補助金について説明～

○委員 C

九会校区では、女性で役員になられている方はまだいらっしゃらないですし、社会教育推進員は町の役員に入っていないと思います。入っているところは確かに少ないと思います。

今のままでは、社会教育推進員は区長さんから推薦されただけで終わってしまうことが多いと思うので、九会校区ではふるさと創造会議と一緒に何か活動ができないかと考えております。

町によって社会教育に対する温度差はあると思うのですが、それでもやはり社会教育推進員としての役割を明確にして、活動をしていただきたいなと思っています。コロナ禍で事業が止まってしまったので、先輩方に聞きながら、活動をしていけたらと思っています。

○委員長

社会教育推進事業補助金については大変ありがたいと思っています。令和2年度まであった校区ふれあい活性化事業補助金は、小学校区単位で一律1万8000円を交付という補助金でしたが、今回の社会教育推進事業補助金は、町単位で活動するところが申請をして交付ということなので、活動していない町の負担になるということはないですし、良いと思います。この補助金は、新しい事業をするというよりは、もともとの活動の足しにすることになると思うのですが、補助金制度を新設されたことで本気度が伝わってきて嬉しいなと思いました。

話を戻しますが、次年度、学校と地域の連携、コミュニティ・スクール、それから部活動の地域移行、いろいろなテーマが挙がりましたけれど、1つに絞るのか、それともいろいろな話をするのか、どういたしましょうか。

○委員 D

1つお聞きしたいのですが、配布資料の「教育の重点」の趣旨に「将来の世代の暮らしを、持続可能な形で改善することに繋がっていきます」と書いているのですが、これは、加西市で生まれて育った子どもたちに加西市内に残ってもらって、家庭を作り、世代を引き継いでほしいという意味に捉えられるのでしょうか。

○事務局

外に出ないでほしいということではないと思いますが、加西市で育った人がふるさとに誇りを持ち、ここで子育てをしていきたいと思ってもらえるようなまちづくりは目指すところではあります。逆に、加西市以外の人からも魅力的に見えるようなまちづくりを目指したいという意味合いもあると思います。

○委員 D

移住者が増えるというのは、どこの地方にとっても夢だと思います。そういうことに繋げていけるように、公民館活動、社会教育活動をしていくのであれば、それは大きなキーポイントかなと思います。

○事務局

加西市は、市外に出ていく若者が多いという傾向があります。ただ、一度市外に出たとしても、また加西市に戻ってくる方もいらっしゃいます。子どもの頃に公民館で活動したようなことを加西市に戻ってやってみようと思ってもらえるところは、

やはり、目指さないといけないところだと思っています。

○委員長

結局、社会教育委員会だけでは時間が短いので、勉強するぐらいしかできないと思います。ですので、担当課の方に来ていただいて現状を聞いて、私たちが意見を言うことになると思うのですが、やらないよりはやる方がいいと思っています。

○委員 B

私たちにどれだけの力があって、市からの期待はどれくらいのものなのかとも思っています。

○委員長

大きく変えることとはできないかもしれませんが、社会教育委員として部活動の地域移行やコミュニティ・スクールについての研修を受けるのと、加西市の現状を知るのはまた違うと思います。コミュニティ・スクール自体については各自で少し学んでおいたうえで、加西市ではどのように進んでいるのかを知り、こうやっていけばいいのではないかというような意見を言えればいいですよ。

○委員 B

加西市の学校は、それぞれ個性がありますよね。学童の関係で市内の小学校を回っていると子どもたちが全然違うなと感じます。

○委員 A

テーマについては、焦点が絞りにくいところですね。東・北播磨の研修会で部活動の地域移行が取り上げられていました。研修を受けて、比較的つかみやすいのが部活動かなと思います。

兵庫県の沼島にある小学校と中学校では、子どもたちが合わせて8人しかいないので、体育の時間や部活動において集団スポーツができないのですよね。個人スポーツはできるかもしれませんが、人間形成の中で互いが関わり合っていく集団スポーツができないのです。互いが関わり合っていく中で地域が成り立っていくという方向で社会教育や部活動、学校教育を考えると深刻な話です。

加西市の中でもいろいろな地域がありますよね。北条地区は部活動の地域移行に比較的、適正な規模だと思いますが、宇仁地区など子どもが減少している地域もありますので、そういったところではなかなか難しいところがあります。

○委員長

今、委員 A のお話をお聞きしていて思い出したことがあります。私は宇仁地区の隣の日吉地区出身で、ゲートボールクラブに所属していたのですが、その時に週に1回、地域から指導に来てくださる方たちがいらっしゃいました。指導だけでなく、一緒にゲームをしてくださることもありました。私はその方たちの団体名などは知らなかったのですが、きっと、子どもたちがゲートボールをするということで、地域の方たちは協力をしてくださっていたのだと思います。

それは、部活動の支援でもあり、もう1つはコミュニティ・スクールのはしりだったのだろうと思います。地域で、子どもたちを見ていくこと、応援していくこと、そういう当たり前のことをして下さっていたのかなと思います。

社会教育委員会では、部活動というところを取っかかりにして、地域支援の話も

できたらいいなと思います。

○委員 C

私も社会教育委員の中でどういうことができるのかというと、委員長がおっしゃったように、勉強して終わるのかなと思っていました。

部活動の地域移行にしてもコミュニティ・スクールにしても、学校教育課や総合教育センター、学校、地域、保護者が関わってくると思います。この社会教育委員会のメンバーで解決というのはもちろん無理ですが、私はそれで他の地域のことがわかってくるのかなと思っていました。ですので、勉強が8割で、2割くらい貢献ができたらいいいのかなと思っていました。テーマを決めるのであれば、おそらく、部活動が一番共有できるテーマなのかなと思っていました。また、部活動の話からコミュニティ・スクールにうまく話を移行していければ良いかなと思います。ただ、校区によって温度差が違いますので、そのあたりは難しいなと思っていました。

○委員 A

鹿児島県は小さな島がたくさんあるのですが、島に学校がなくならないように、先生が家族で移住して、先生の子どもを教育することで学校を守っています。学校は、地域の象徴であり、灯台のようなものですので、絶対無くさないのですよね。ですので、鹿児島県の教育予算は莫大です。

また、アメリカでは、サマースクールといって、遠隔地の子ども達と交流しています。狭い範囲だから地域なのではなく、そこに住む人々の気持ちの繋がりが作られていることが地域なのです。交流をしっかりとすることによって、気持ちが繋がってくると、加西市は1つだと思います。

○委員長

様々意見がありましたが、来年度は、部活動の地域移行ということでテーマを設け、その方向で準備をしていきたいと思っています。

4. 報告事項

(1) 令和6年度生涯学習課の取り組みについて

(2) 令和6年度採用公民館長について

○事務局

～事務局より令和6年度生涯学習課の取り組みについて説明～

～事務局より令和6年度採用公民館長について説明～

○委員 A

地域によっては、公民館を無くしてしまっているところもありますが、「加西市はなんたって公民館」ということで、加西市の1つの象徴として公民館を大事にしておられます。

また、加西市は元学校長が公民館長になられていることが多いですが、形骸化してはいけません。そして、学校と公民館は、一体的なものであってほしいと思います。元学校長が公民館におられたら、子どもたちはより公民館に来やすくなります。そういう雰囲気を作っていただくことによって、加西市の特色を持ちながら、加西市の公民館はできていると思っています。

○委員 D

事務局の努力が見えて嬉しいなと思って聞いていたのですが、「こども情報誌」に使われている QR コードが気になりました。スマホ講座を開催されているとのことでしたが、スマホを使ううえでリスクもあることを講座で必ず注意喚起していただきたいなと思いました。

○委員長

スマート図書館について、私は図書館の運営委員会にも入っていて、このスマート図書館のお話はずっと聞いてきました。北部公民館は階段が多いので、本の返却場所としてはどうかなのかという意見もあったのですが、これだけの利用者数の実績があり、皆さん公民館を意識して来てくださっているのだと嬉しく思いました。

また、社会教育推進員のアンケートと研修会について、本当に地域に必要なものかどうか改めて見直すということで、丁寧に対応してくださったと本当に感謝しております。

4月に研修会を行いますが、地域は社会教育推進員に関するアンケートを取ったところで止まっていますので、皆さんどういう気持ちでこの研修会にご参加くださるのか不安ですが、ここまで丁寧に進めてきてくださったので、教育委員会の思いがどこにあるのかをしっかりとお伝えしていきたいと思えます。

生涯学習事業補助金については、少し簡単にもらえすぎているのかなと思います。本来は、どういうふうに生涯学習に貢献するのかしっかりとプレゼンをしてもらい、外部の人たちを入れて審査を行うべきです。今年度、新設した補助金なので、予算はついていないし、申請件数は少ないし、承認しないといけないという部分もあったと思います。ただ、補助金がなくても自分たちは市の生涯学習を推進するために活動をするのだという団体に補助金を出してほしいと思います。団体には全く予算ない状態で、10万円の補助金をもらって11万円の事業をするようなところには、補助金を出すべきではないのではないと思うのです。団体の立ち上げのための助成金であれば、もちろん元のお金がないので、それでもいいかなと思うのですが。

また、補助金額は、一律10万円ではなくて、活動内容等によって決定してもいいのではないかと思います。例えば、もともとやっていた内容と同じで、参加者が3名しかいないというような事業であれば、団体の支援にしかなくなってないので上限3万円などにしてもいいと思います。

○委員 A

委員長のご意見に大賛成です。

やはり、社会貢献ですから、社会に還元できるものでないといけないと思います。これまでどれくらいの活動に取り組んでいるかについても、ある程度は書面で見させていただく必要があると思います。

○委員長

最後に1つ、生涯学習相談は私も講師として参加させていただいているのですが、先ほど委員 D もおっしゃった QR コードの相談もあつたりします。相談件数が増えていることについては嬉しいと思っていますが、相談の内容は様々なことがあります。

○副委員長

公民館の主催講座から登録グループになりたいという団体のお話です。「4月から登録グループになるのですがそれまでに募集のチラシを貼りたい」という相談に、「4月にならないと募集のチラシを貼れません」だとか、「こういう場所を使いたい」というと「この場所はうちの管轄ではないので使えません」というような返事があったという相談がありました。活動を妨げるような対応ではなく、たとえば、「この場所は使えないけれど、こっちの場所はどうですか」などの代案があるべきだと思います。

また、登録グループの新規登録の時期は決まっていないと思いますが、「登録グループからの承認があるので、まだ新規登録はできません」と言われたそうです。地域に開かれた公民館としては、できないではなく、できる方法を考えるようにしてほしいと思っています。また、きちんとルールがあると思いますので、4館のルールをそろえてほしいと思います。

○事務局

この件については、こちらからも当該公民館に聞き取りをさせていただいたのですが、若干、主張が食い違っているところがありました。ただ、市民の方に正しくお伝えできなかったのは、公民館として対応にもう少し配慮が必要だったと思っております。ただ、担当者としては単純に駄目と言っているわけではなかったということでした。公民館がマイルールで動いているということや、面倒くさいとの思いで動いているということはないのですが、代案を提示するなどをする必要があったと思います。

○委員長

私が受けた報告では、その公民館では新規登録グループを承認する月が4回あるということでした。ですが、そもそも他の館では新規登録グループの承認という過程がないと思うので、そのあたりのルールが統一されていないのが気になりました。

○事務局

少なくとも現公民館長が作ったルールではなく、以前から引き継がれているルールだと思うのですが、市内の公民館でルールが統一されていないというのは、おっしゃる通りです。問題提起をしていただきましたので、現状を確認して対応するようにいたします。

○委員C

南部公民館は、新規登録グループの承認という過程はなく、総会で知ります。とにかく、登録グループが入りやすいように整えてほしいなどは思います。

○委員B

この頃、皆さんのマナーや考え方が利己的になっているなど感じています。いろいろなところで様々な苦情を耳にするようになりました。だからと言って何ができるのかというところですが、このままでいいのかなとは疑問に思っています。

5. 連絡事項

(1) 令和5年度社会教育関係年間事業実施状況表

- (2) 令和6年度社会教育委員協議会事業計画
- (3) 「令和6年度公民館への誘い」
- (4) その他

～事務局より上記について報告～

6. 閉会

○副委員長

本日は、活発なご意見をありがとうございました。

来年度は部活動の移行とコミュニティ・スクールということで、どちらもこれからというテーマなので、自分たちの活動の中でそこに関わっていけるようなことがあればと思います。来年度もよろしくお願いします。